



■軽装甲機動車  
防災パネル  
携行食の展示

# 長崎 MICE EXPO

～みんなでつくる長崎の未来～

## における募集広報

### 子どものお仕事体験イベント わくわくワーク! はたらきっず フェスタ



■ロープ結索法の体験教室



発行所  
自衛隊長崎地方協力本部  
長崎市出島町2番25号  
Tel. 095-826-8844



長崎地本公式HP



長崎地本公式 Twitter



長崎地本公式 Instagram

また、本イベント併催の「ながさきはたらきっず宣言！」合同企業説明会には、琴海地域事務所(所長 中村恭博 陸曹長)が募集広報ブースを展開し11名に対して説明を実施した。

長崎地本は、長崎県民に対して自衛隊に対する理解を深めてもらい、引き続き積極的な募集広報活動に努めていく。(募集課)



■募集広報ブースにて来場者への説明



長崎地本(本部長 江上昌利 1等海佐)は、11月13日(土)及び14日(日)に十八親和銀行等が主催する「長崎 MICE EXPO」において、第16普通科連隊(連隊長 福添哲生 1等陸佐)の支援を得て募集広報を実施した。来場者総数は両日合わせて約1万5千名であった。

出島メッセ長崎は11月1日(月)に長崎市尾上町において開業した大型多目的コンベンションセンターであり、本イベントはこの開業に伴う、こけら落としイベントとして開催された。

本イベント中、「子どものお仕事体験」に設置した自衛隊ブースには162名の小学生と120名の保護者が訪れた。長崎募集案内所(所長 赤波江真治 准陸尉)によるロープ結索法の体験教室のほか、軽装甲機動車・防災パネル・携行食の展示を実施した。イベントに参加した小学生と保護者は熱心にロープ結索法に取り組んでいた。



また、親近感あふれる雰囲気のまま終了し、非常に有意義な艦艇広報となった。

佐世保出張所は、今回の艦艇広報だけでなく、職場体験や職業講話などを積極的に実施し、早期に自衛隊への興味や理解を継続的に広げていく。(佐世保出張所)



## 多用途支援艦 「あまくさ」特別公開

佐世保出張所(所長 田代 教 1等海尉)は、11月9日(火)佐世保市宇久町の宇久平港において、多用途支援艦「あまくさ」による艦艇広報を実施した。

本艦艇広報には、特別公開として宇久小・中学校の生徒及び教諭62名が参加し、3個グループに分かれて、艦橋・医务室・食堂の説明や隊員によるラップ吹奏などを見学した。特に艦橋では参加者が双眼鏡を覗いたり、操舵席に座るなどして自衛官気分を楽しんでいた。参加した中学生からは「自衛官カッコイイ。」「俺、自衛官なろうかな。」などと将来への入隊意欲の声があった。また、参加した小学生からは、乗員に対して大きな声で元気よく挨拶や質問をし、帰る際には見えなくなるまで手を振るなど、親近感あふれる雰囲気のまま終了し、非常に有意義な艦艇広報となった。

国家を守る、  
公務員。  
自衛官募集中



■食堂での説明



■艦橋で双眼鏡を覗いている参加者



# 大船越小学校 対馬駐屯地見学

対馬駐在員事務所（所長 新甫豊 陸曹長）は、10月28日（木）対馬市立大船越小学校（対馬市美津島町）の陸上自衛隊対馬駐屯地（司令 町中芳則 1等陸佐）見学を支援した。

本件は、従来島外での修学旅行を行っていた大船越小学校から新型コロナウイルス感染症により、島内での修学旅行を計画するに当たり、陸上自衛隊対馬駐屯地の見学の依頼を受けたものである。

当日は、快晴かつ温暖な天候に恵まれ、陸上自衛隊対馬駐屯地のグラウンドに到着した生徒達は、2個グループに分かれ装備品の説明を受けたのち体験試乗を行った。普段は見られない装備品に興味津々で熱心に説明を聞き、軽装甲機動車や高機動車の体験試乗では大いに楽しんでいる様子であった。



生徒からは「車は何台あるのですか？」「どんな訓練をしているのですか？」などの質問のほか、「自衛隊の人は怖いと思っていたけど、優しくて、面白い人がいると知りました。」などの感想を述べていた。

対馬駐在員事務所は、今後も学校からの要望にできる限り対応していき、自衛隊への理解を深めて頂くとともに職業選択の1つになる様に活動してゆく所存である。

（対馬駐在員事務所）



**陸・海・空のリーダーである  
幹部自衛官を育成する  
防衛大学校試験始まる！**



■防衛大学校試験(諫早商工会議所)

また、そのほか戦史や国防論、戦略論なども履修するが、これらは一般大学には見られない防衛大学校ならではの教育科目である。

さらに、防衛大学校では年間を通し、さまざまな行事が行われ、学生全員が参加し「学び、鍛え、親睦を深める」をモットーに多様な行事が有意義な学生生活をサポートし、毎日をよりいっそう豊かにしている。

校友会（クラブ活動）においては、スポーツと文化の両分野で活動を通じて友情を育み、気力・体力の向上と連帯感の養成を目指している。

防衛大学校では、陸上・海上・航空各自衛隊の平和を守るリーダーとしてふさわしい人材を数多く輩出するため、全国各地から同じ志をもった学生の志願を心待ちにしており、昨年度は長崎県から10名が防衛大学校に入学している。



■防衛大学校試験(北九州予備校長崎校)

また、日本で唯一、幹部自衛官を育成する大科学教育機関であり、その学習環境では広い視野、科学的な思考力、豊かな人間性、そして幹部自衛官にふさわしい精神を育くんでいる。

在学期間は、一般大学と同じ4年制であり、人文・社会科学系又は理工学系に分かれ、2学年進級時に14分野の学科から本人の希望等により1学科を専攻する。

長崎地本は、一人でも多くの若者が自衛官という職業の魅力を理解して志願していただけることを祈念しつつ、日夜、募集活動に全力で取り組んでまいりますので、引き続き、皆様のご支援・ご協力を賜りますようお願いいたします。

（募集課）



## 今年度 第2回目の若年定年退職予定隊員インターンシップを実施

長崎地本（本部長 江上昌利 1等海佐）は10月18日（月）から22日（金）、長崎県内での今年度2回目の若年定年退職予定隊員向けのインターンシップを実施した。

本施策は、若年定年退職予定隊員に対しては、再就職先となる職域の拡大、再就職者の早期離職防止を、インターンシップ受入企業に対しては、自衛官の有用性周知を目的に実施している。今回のインターンシップは調整段階で長崎県にまん延防止等重点措置が適用されるなど、新型コロナウイルス感染症第5波が重なったことが影響し、各援護担当者はインターンシップを受入れてくださる企業の選定・調整に苦労した。しかし、PCR検査受検を条件とする企業や退職自衛官の雇用実績が無いものの中止となった長崎県任期制隊員合同企業説明会に応募された新規企業など製造業2社及び運輸業、ホテル業、障害者支援施設各1社の計5社から同意を頂いた。参加した9名の隊員は、今回のインターンシップが職域選択の幅を広げるとともに、業務体験や自衛隊OBの社員との懇談を通じて、再就職先選定及び諸準備の不安や疑問の解消も一定程度図れた旨をインターンシップ終了後の意見交換会で口々に語っていた。また、自衛官の雇用実績が無かった新規企業へも自衛官の有用性周知を一定程度図れたものと認識しており、今後の定年制の就職援護に繋げていきたいと考えている。

長崎地本は、来年の2月に3回目のインターンシップを計画し、隊員が安心して第2の人生の出発に向けた準備に臨めるよう就職援助を充実させていく。

（援護課）



■伸和コントロールズ(株)での業務体験



■ホテルオークラJRハウステンボスでの自衛隊OB社員との懇談